**アンケート・ピックアップ**

**5月12日　NPO法人ETIC.インターンシップ事業部マネージャー　内野　博礼　氏**

**問１　学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ**

　自分と同じ大学生が、外国で子供たちを救う活動をしていたということはとても心を動かされました。何かしなくてはと思っていても実際に行動に移す人は少ないと思っていたので、本当に活動をしている方々の話を聞くととても参考になります。

　人を助けるためにはただ問題の解決策を考えるのではなく、ビジネスにすることで長期的に、効率的に結果を出すことができるのだとよくわかりました。学生時代に思っていたことが将来事業につながるという話が多かったので、今の私自身が感じたことを大切にしていきたいと思いました。インターンシップはただ単に社会経験を積む場なのではなく、自ら考え動くことで、自分自身の発見にもつなげることができるのだと具体的な様子がよくわかりました。今までインターンシップのことをよくわかっていなかったので聞けてよかったです。（教育人間・人間文化・一年）

「自分が生み出したい価値を実現できる企業に就職する」、「自分の顧客はだれか」という

言葉が今回の講演でとても印象に残りました。「経営者から学ぶリーダーシップと経営理論」の授業では、ほとんどが起業する人を対象とした内容のお話が多いです。もちろんそういう授業なのでしょうがないと思いますが、私は経営学部でもなく、起業する予定もないし、この授業は就職に対する意識が低い自分に少しでも刺激が与えられたらな、と思い取りました。今回のこの言葉は就職を目指している私にとってとても刺激的な言葉でした。

私は今、自分が何の職業に就きたいのか、何をしたいのか全く分からず悩んでいます。しかしこの言葉で、少し方向性が見えてきたかと思います。具体的なものではありませんが、具体的なものは、それこそインターンシップを行ったり実際の社会の現場で経験を積むことで見つけていけたらなと思っています。インターンシップは三年生になってから考えればいいと思っていましたが、もう少し早く考えて、自分が編み出したい価値を実現してくれるような会社に就職したいと思います。（教育人間科学部　人間文化学科　一年）

今日の話を聞く限り、起業家になる人は社会や世の中を変えたいという意識を持っていて、それを実現するためのアイディアとやる気があると感じました。インターンシップに参加することによって、社会に出たときに自分の武器になるものを身に付けることができると思いました。「働く」ということの本質は、社会や顧客に対して価値を生み出すという言葉はとても印象に残っていて、これからの４年間で自分がどうしたいのか考えなくてはならないと思いましたし、インターンシップを通して、自分ができないこと、自分が興味を持てるものを見つけることができるのではないかと考えました。(経営　会計・情報　１年)

私は今まで、起業するということは1から新しいものを創り出すことだと考えていました。しかし、今日の様々な方の事例を聞いて、当たり前だと思われている問題などに目を向けて、変えられるように考えるということが一番のきっかけなのではないかと思いました。日本が抱えている、高齢化・待機児童の問題などについて自分にできることはないかと考え、それがビジネスにつながるということは、社会的価値を最大限に生み出していると感じます。「アントレプレナーシップ」を身につけるためにはインターンシップを通して実践的な経験を積むのが一番だと思います。大学の勉強はもちろんですが、人間力を向上させることも大切なのだと感じました。本日はお忙しい中ご講演していただき、ありがとうございました。（経営学部・会計･情報学科・1年）

「関わる人すべてを幸せにするのが企業である」という言葉がとても印象的でした。企業だけ、そして買った人だけ、生産者だけ…そうした誰かだけが得をするのではなく、すべてを幸せにしようとする姿勢にとても感銘を受けました。イデアインターナショナルについては自分でもまた調べてみたいと思います。また、自分の顧客は誰か、という言葉も印象に残りました。今の私にとっての顧客は何なのか、私はどういうことがしたいのか、改めて考えてみるとこで、自分の将来もより、はっきりと見えてくるのではないかと感じました。地元が好きだという気持ちや、普段思う「これは何とかしなければいけないのではないか」という、いう気持ちが、具体的な行動につなげられるように考えていかなくてはならないと感じました。（経営・経営・1年）

内野さんが高校時代に感じていた満員電車の話、また日本の大学生と海外の大学生との違いの話にはとても共感しました。今の日本の大学生にはやはり問題があると思います。楽に単位をとりたい、授業中に居眠り、これが当たり前で意欲あるものを「意識が高い」という言葉でバカにして遠ざける。「学ぼう、そして何か世の中を変えよう」という意識が海外の学生にはあるのに日本の学生にはない、このままでは日本は確実に終わると感じました。今まで私の中で当たり前だった、今ある企業に就職しようという考えは甘かったことがわかりました。インターンは自主性を持たないとやっていけないと思いました。（経済・国際経済・１年）

　この世の中をどうしていくのさ？という問いかけが心に残った。今までの私は、将来自分はどうなるのだろうか、どうしていこうかと私と私のまわりの狭いとこしか考えていなかった。しかし、今日の講義の中での「この世の中をどうしていくのさ？」という言葉で、もっと広く世の中を見ていかなくてはならないと思った。これからは、自分はこの世の中をこういうことで変えていきたいと考えていきたい。また、世の中を変えていくやり方も考えるようになりたい。（経営学部・経営学科・１年）

**問２　本日の講義を踏まえて、今後のアクションに繋げていきたいこと**

私の地元は田舎で、やはり自分にとって魅力的な仕事はあまりないなと思っていました。けれど、今日の講義を聞いてそういった状況であるのなら、自分で作ればよいのだというのを知ったのでこれからは与えられたもの中だけから受け身に考えるのではなくて、自分から積極的に好ましい事業を打ち立てていきたいと思います。（経営・会計情報1年）

“新たな価値を創造する”というのがメインアイディアの一つだと思った。これは、アントレプレナーだけでなく、古典的な建築の世界でも必要な考え方だと感じた。建造物一つにしても、それは周りの人の行動範囲を変え、町の景色を良い意味でも悪い意味でも変えてしまう。その自覚を持ち、現段階では図面上の設計だが、取り組んでいきたいと思った。（理工学部・建築都市環境学科・1年）

期待値に限界のあるバイトにとどまることなく期待値が無限大であるインターシップに参加することで自分の中で何か芽生えることを期待したいです。またビジネスとは何か、何が必要なのか、自分には何が足りないのかということを学び、さらに学生ではなく社会人、正社員としての自覚を身につけたいと思いました。（経済学部　経済システム学科　１年）

**授業スタッフの感想１**

今回自分が興味を持ったのがコミュニティ起業家という言葉だ。起業家というと社会全体を変えてやるというふうな感じがするがコミュニティにしぼった改革をおこなって行くことで確実にそしてその地域地域に独自性を持った事業を行う、そうしたことによってより確実にそしてより深く向き合いより大きな結果を出すことができる。

今自分は日本ないしは世界の人々に幸せを健康を届けられるような取り組みがしたいと考えているけれどまずは地域からそのような事業を行っていくのも面白そうだなと思った。

**授業スタッフの感想2**

　今回多かった感想は、3.4年生からではなく1.2年生からインターンを始めようと思ったということや120％理論実現していこうなどでした。私も相手の期待を超えようとする120％理論がとても心に響きました。これからどんな時も120％理論を実現していこうと思いました。